opusdei.org

黙想:灰の水曜日

黙想のテーマ:「四旬節:回 心の時」「祈り、施し、断 食」「父の家に帰る」

四旬節:回心の時

祈り、施し、断食

父の家に帰る

「神よ、あなたはすべてのものをあわれみ、お造りになったものを一つも嫌われることはない。あなたは人の罪を見逃し、回心する人をゆるしてくださる。まことにあなたはわた

したちの神」団。ミサの始めに響く この「知恵の書」の言葉が、四旬節 の開始を告げます。

きょう行われる「灰の式」で、私た ちは司祭のもとに行き、こうべを垂 れて頭か額に灰をかけてもらいま す。そこで私たちはイエスのあの呼 びかけを思い起こします。「回心し て福音を信じなさい」。あるいは創 世記の物語に啓発された、「あなた はちりであり、ちりに帰って行くの です」という警句を思います。それ は私たちの命がいかに脆いものであ るかを考えさせる力強い所作です。 しかしこの儀式の背後に、私たちを 探し求めておられる神の優しさを見 いだすことができます。聖ホセマリ アは次のように解釈しました。「人 間が神から離れた状態を黙想させる 四旬節の典礼は、時として悲痛な調 子を帯びてきます。しかしこの悲劇 的な調子は四旬節の結論ではありま せん。結びの言葉は神が述べられま

す。そしてその言葉とは救い主の愛と慈悲の言葉、従って神と私たちの親子関係を確認する言葉なのです」 [2]。

脆い存在に過ぎない自分に気づくと きがあります。家族や職場での難 題、健康上の問題、予期せぬ出来事 に遭ったとき、そして何よりも自分 自身の罪の経験から、私たちは「塵 と灰上に過ぎないわが身を思い知ら されます。しかしキリスト教信仰 は、我々の脆さよりも神の憐れみが もっと大きいことを確信させてくれ るのです。自己の限界を自覚しつつ も、私たちはいつも詩編作者ととも に歌うことができるでしょう。「地 は主の慈しみに満ちている | (詩編 33・5) と。神の忍耐は実に偉大 で、私たちが神に背を向けるときこ そ、神の愛へのあこがれを抱かせて くださいます。四旬節は、このあこ がれを回心に変えて御父の家に戻

り、主の優しさをあらためて体験する好機なのです。

私たちは主の慈しみに包まれて生き てはいても、時としてこの現実を忘 れてしまうことがあります。しかし 福音書の中でイエスは、神が絶えず 私たちをご覧になっていることを思 い起こさせます。施しの仕方や祈り 方、断食の仕方について説明なさる とき、主は他人に見せるためにする なら価値がないと主張されるので す。人に見てもらおうとして行うな ら、私たちは主を脇に置いてしま い、善行も台無しになるからです。 一方で、神は「隠れたことを」 (マ タイ6・4) 見ておられ、私たちの心 の内奥に耳を傾けてくださっていま す。四旬節は、外の世界に気を取ら れず、現実を新たな見方で、より超

自然的に受け入れられるような心構 えを育むための好機なのです。

「私たちは神への回心によって霊的 に成熟します。回心は祈りによっ て、さらには適切な断食と施しに よって実現します。これらは単なる 一過性の"修行"ではなく、神への回 心を永続するかたちで行う不変の態 度のことです。典礼暦の一期間であ る四旬節は1年に40日しかないので すが、私たちは常に神に立ち返らな ければなりません。絶え間なく回心 する必要があるということです。四 旬節は、私たちの人生に強く消える ことのない印象を残さねばなりませ 6 I I3To

各自の状況に合った祈りと施しと断 食の道は、この期間を通じて私たち のまなざしを主の方に高めてくれる でしょう。「『祈る』ために長い時 間を費やすことにより、わたしたち の心は自分自身をあざむく隠れた嘘 を暴き、神の慰めを最終的に探し求 めます。(…)『施し』は、わたし たちを欲深さから解放し、隣人がが 分の兄弟姉妹であることに気づかか くれます。自分のものは、(いう 食はわたしたちを目覚めさせ、は はれたしたちを向けるよう促し、 神に従う意欲を燃え上がらせま唯 のかたなのです」[4]。

「放蕩息子を見ると、私たちも御父のもとに戻る時が来たのだと悟ります。あの息子と同じように、私たらなも故郷の香りを忘れ、取るに足らむいもののために貴重な財産を浪費した結果、手ぶらで心に不幸を抱えているのです。私たちは倒れてばかりいる子どもで、歩こうとするが地面に倒れ、

いつも父親に抱き上げてもらわなければならない幼児のようなものです | 151。

主の慈しみが地に満ちていて、主が 常に待ち続けてくださる父であると 分かっても、私たちが消極的な人に なるわけではありません。それどこ ろかこの愛は、私たちが自ら進んで 神のもとに立ち戻る道を見出そうと する力となります。そして神に立ち 戻るために特に恵み深い方法の一つ が、ゆるしの秘跡です。「私たちを 立ち直らせるのは御父の赦しであ り、神の赦しであり、告解です。そ れは私たちの帰還の旅の第一歩で す」で、そこで私たちは、ご自分の 子どもとして励まし、愛してくださ る神の父としてのみ顔に出会うので す。

聖ホセマリアはこう語りました。 「人間の一生とは、ある意味で、何 度も御父のもとに戻ることだと言え ます。新たに生活を建て直すという 堅い決心と痛悔の心をもって主のの 住まいに立ち返ることなのでましてすることを委託により、 はずです」であるに戻り、 はずであるにです。 は共にいてるできます。 は共にとることができます。 は御子の復活祭を祝うために、 は御子の復活祭を祝うために、 は御子の復活祭を祝うために、 は一次とができるのです。 手に委ねることができるのです。

- [1] 灰の水曜日、入祭唱。
- [2] 聖ホセマリア『知識の香』66。
- [3] 聖ヨハネ・パウロ二世、一般謁 見演説、1979年3月14日。
- [4] フランシスコ、「2018年四旬節 メッセージ」、2018年2月14日。

[5] 教皇フランシスコ、説教、2021 年2月17日。

[6] 同。

[7] 聖ホセマリア、『知識の香』 64。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/meditation/mokusou-shijyunsetsu-hainosuiyou/(2025/12/17)